(一)　第629号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　【毎週日曜日発行】　昭和35年(1960)6月26日（日）

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番 7140番
編集兼発行人　北岡　隆

追いつめられて血迷いあせる敵の挑発をハネ返えし、勝利を確信し、団結を守ってたたかいぬこう。

追撃の手を緩めず
勝利の確信もつて進もう

労働者を中心とする国民の、平和と民主主義を守る闘いの前に、岸はついに退陣を余儀なくされた。われわれはこの力を、さらに結集して、安保体制打破に向けて闘つているが、安保と表裏一体となつて闘かわれている三池闘争でも、会社はいよいよ窮地に立たされ、いま最後のあがきを示し、デマ宣伝・挑発に躍気となつている。勝利への展望はいよいよ確固となつてきた。

三井に集まる攻撃

アメリカ帝国主義の手先となつて民主主義をふみにじり、新安保批准強行に狂奔した岸内閣は、国民から完全に見離され、ついに平和と民主主義を愛する労働者・国民の力で退陣させられた。

六月二十三日、平和と民主主義を愛する国民の目をおそれて、岸は新安保の批准書交換を、それこそ全くコソコソとやつてのけ、いま国民に、新安保は発効したと押しつけてきている。

このファッショ的、独裁的やり方にたいして、労働者を中心とする平和を愛する国民の怒りは、ますます高まり、一年有余つづけて来た闘いの力をさらに結集して立上つている。

憲法上無効な新安保を、いくら押しつけたとしても無意味であり、若しもこれを認めるとすれば民主主義の否定になる。

安保粉砕目指す闘いは岸退陣をかちとり、さらに高まつている。

ちょうどそれと同じように、簡単に労働者の首を切り、生活を奪い民主主義をふみにじつた三井資本は、当然のむくいとして全労働者全国民の激しい憤激と抗議をうけている。

全国に高まつている安保粉砕の波は、三池闘争と固く結びついて「安保粉砕」「三池を守れ」の声は平和と民主主義を愛する全国民の合言葉となつて高まつている。

直接、仲間の久保さんを殺され、多くの兄弟が傷つけられ、不当弾圧をうけたわれわれは、労働運動の誇りと日本の民主主義を固く守つて三井をジリジリと追いつめている。

デマ・中傷に躍起

現地大牟田で去る六月八、九日にひらかれた総評臨時大会、つづいて十日から三日間の炭婦協全国大会、十三、十四日福岡市でひらかれた炭労臨時大会は労働者の権利と生活を守り抜き、民族の危機にあたつて全国民の先頭に立つて闘うことを決議した。

そして、自民党・三井・分裂主義者などのあらゆる中傷・デマ宣伝をことごとくけとばして安保粉砕し三池闘争をかち抜くことを満場一致決定し、全国の労働者と国民は当面する闘いに対してはつきり闘う姿勢と方向を示した。

三池闘争に対する会社のおもわくは、いま完全に外れてしまつた。

当初、会社は第二組合結成と短期決戦を目指し、強行就労・警官隊による弾圧そして生産再開によつて、組合に決定的な打撃を与げるため莫大な闘争資金を注ぎこんだにもかかわらず、いまでは逆に会社自からが打撃を受ける羽目に陥つた。

暴力団・警察・分裂屋を総動員しても、いまだに石炭は一カケラも搬出できなく、白を追うことに焦りはひどくなつてきた。

警官引揚げに狼狽

ウソ八百ならべて第二組合をしばりつけ、結成を強いたが、時日が経つにつれて、第二組合内部にもつもりにつもつた不平や不満が充満し、まさに崩壊点に達している市民のはげしい非難と全国的に盛り上がる安保闘争のため、三井の番犬となり果てた暴力警官も、半数近くが大牟田から引揚げざるを得なくなつた。会社にとつては大きなショックであつた。

あわてた会社は、恥知らずにも再び警官を大牟田に動員し引止めようと、あらゆる悪らつな手段によつて策動している。

さいきんつぎつぎと会社が打つて来た手がハツキリこれを物語つている。

○右翼をふたたび雇いこんで、各地を彷回させ挑発によつて紛争を起こさせる。

○いわゆる疎開家族を社宅に帰させたり、品物を取りに帰させたりして挑発させる。

○勝立の爆発事件・新潟社宅の横川事件・南新開坑事件にみられるように事件をデツチ上げ、さも暴力がひん発しているように宣伝する。

○第二人工島のピケ・潜務所事件などにみるような悪質な挑発とデツチあげ宣伝。

○水道・電気の使用制限や、家の炊事関係業務要員・石炭運搬・鉱業学校関係の業務要員の拒否を申入れ、動揺をネラう。

○できもしない就労行動を起こして第二組合内部の不満をおさえ組合員を挑発する。

○大川町廠のように、第二組合員のストやぶり就労にたいする説得の経過におこなつた紛争を一方的にゆがめて流す悪質な宣伝

○デツチあげによる組合の暴力に対抗する自衛手段と称して公然と暴力をふるうことを表明する

など、これら一連の動きはすべて会社の焦りから出たもので、警官を引止め、第二組合の内部動揺をゴマかし、三池労組がいかにも暴力団の集りのような印象を市民に植えつけ嫌悪感を抱かせようとする、追羽つまつた会社のあがきから策謀されたものである。

着々進む反撃態勢

われわれは、この彼らの焦りと動揺を見抜き、挑発をはねのけ毅然と統一をもつて闘わねばならないわれわれはホツパーをおさえ、宮浦鉱の選炭機下をはじめ、各門をピケで固めその上、会社の唯一の人員・物資補給路である人工島への海路も、海上警戒班でガツチリ守つている。

会社は完全にお手あげであり、この態勢をさらに固め、持続しつづけるなら勝利は確実に保証されている。

こうした有利な闘いの上にたつていま組合では、ますます敵を追いつめるため組織工作としての第二組合員説得班のたゆみなく粘り強い活動をはじめ、潜務所の立入り禁止仮処分に対する闘い、主婦会による地域情宣大会、組合員保母による青空保育園の開設、生活資金対策委員会の活動、三池闘争の本質を広く理解し支援をもとめるための共同映画社の手による映画製作など、追いつめられた敵への反撃の上に立つてつぎつぎと活動をおしすすめている。

勝利を迎える日まで

苦しい闘いをのりこえて来たわれわれは、勝利をわが手に握るまで統一と団結を守り、労働者の力強い歩みをつづけなければならない。いま、さらにみんなの力を結集して安保と首切りを粉砕するために全力を出し合おう。

怒りの六月

悲しみが　空をつつみ
みどりの　木々が
怒りにふるえた　六月

バラが散つた・
お姉ちやんが死んだ

深い静寂は　人々に
アメリカ大使館の
裏口から　逃げだした男と
沖縄県人に
銃剣をつきつけた男

岸　そして手下どもの
告発状をいそがせた

キャベツ畑のヤギのように
平和をくいあらし
あなたを　殺した
六月の下罪人どもを

わたしたち　炭鉱労働者は
三月の　久保清と
あなたに
新安保約条約を　破棄させ
地上に　たたきつけるまで
たたかうことを誓います。